

2016年6月

第69号

ぱれっと



㈱北日本ベストサポート
Tel. 018-883-1888

四国逆打ちお遍路

今回は取り止めのない「四国88ヶ寺逆打ちお遍路」のお話です。

4月中旬この逆打ちお遍路に参加してきました。この逆打ちは4年に一度の「うるう年」に行われているものです。

これは、四国遍路の始まりの「衛門三郎の伝説」に由来するものと言われており、この物語の概略は次のようなものです。

『伊予の国に河野衛門三郎という強欲非道な大百姓が住んでいました。ある日三郎の家の前に一人の托鉢のお坊さんが現れ鈴を鳴らしました。昼寝を邪魔された三郎は、竹箒をもって追い返そうとしお坊さんのお椀を叩き落とし、お椀は8つに割れて飛び散ってしまいました。そんなことがあった翌日から、三郎の8人の子供が次々と死んでしまいます。ある夜、悲しみの中の三郎の夢枕にあの旅のお坊さんが現れ「全非を悔いて情け深い人になれ」と告げます。そこで初めて三郎はあの時の旅僧は弘法大師だと気づきました。

三郎は、四国を巡っている弘法大師に許しを得ようと旅に出ました。20回の巡礼を重ねても巡り合うことが出来ません。21回目に逆から回ることになりましたが、途中、焼山寺山麓で倒れてしまいました。そこに弘法大師が現れ「これでお前の罪も消える。最後に何か望みはないか」と声をかけました。・・・』

この最後に御大師様に出会えた幸運の年は、実は「うるう年で逆打ち巡礼」をした年でした。ここから「うるう年の逆打ち巡礼」はご利益があると言われるようになりました。また、衛門三郎は四国遍路の元祖ともいわれています。

今回は第88番札所大窪寺から1番札所霊山寺までの逆打ち巡礼と高野山奥の院にある弘法大師御廟御前で逆打ち満願報告をする15日間の旅でした。

お遍路では一礼して山門を通り、お手水舎で手と口を清め、鐘楼で鐘を突き、本堂とお大師堂でお札を納め・お灯明・お線香・お賽銭を献じる。そして、開経偈・十善戒・般若心経などを読経する。これの繰り返しです。

一行22名（男性10名・女性12名、平均年齢72歳）はリピーター14名でした。最高お遍路回数16回目の人、歩きお遍路4回を成し遂げたベテラン組から初心者まで、また、参加の動機も「配偶者・子供の供養」「観光」「その他悩み事」など様々でした。時には、日常生活から離れ「先祖供養」（普段の疎遠の詫びもかねて）と風光明媚な四国観光の旅は癒しの旅といえるでしょう。

最後に88番札所の大窪寺で参加者の願い事を祈願する「護摩祈祷」が行われました。私は「家内安全」と「ぴんぴんころりん」をお願いしたら、「ぴんぴんころりん」は、「頓証仏果」（とんしょうぶつか・早く悟りを開く・早く成仏するの意）で祈祷していました。護摩壇に願い事を書いた護摩木をどんどん燃やし炎が高く舞い上がる中、太鼓と大声でお経を唱え見事な祈祷でした。

さて逆打ち巡礼、御利益はいかに・・・。



会社のためではなく社会のために

元慶應義塾大学 名誉教授 村田 昭治

企業を取り巻く環境はきびしいが、リーダーが考えなければいけないことは、会社のためではなく社会にとって公正かどうかということだ。

いまの仕事を社会が望んでいるか、人びとが喜んでいるかという当たり前のことをしっかり踏まえずに、競合企業がやるからうちもやる、こういうのがいまの風潮らしいからやるのでは寂しい。

企業リーダーは実際家のはずだ。実際家とは、自分が考えていることを考え抜き練り磨いて、ビジネスをどういうふうに進めるかをデザインする人だ。

おそらく過去に、困難のなかで泥水を飲まされた経験が何回もあるだろう。その経験が人間をたくましくし、挑戦するスピリットを強くし、壁を破壊する力をもつのだ。

また、企業リーダーが、自社に余力がたくさんあることに気がついていないのではないか。

たとえば会社を訪問して感じるのは、複数の社員が同じ仕事を重複して行っていることだ。

社内の知恵、力の結集が見られず、仕事への粘着力が弱い。

お客の不平、不満、苦情からアイデアを汲みあげようという執念が足りない。

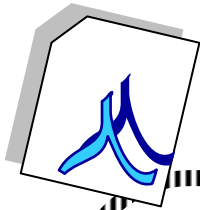
仕事が細分化されすぎ、自分の責任領域を限定しすぎるためにパフォーマンス（何かひとつ経験したらそこで形をつくって、それをまた破壊して次の創造をする）がないなどである。

それらの弊はどこからくるのか。

ラグビーには『ワン フォー オール』『オール フォー ワン』の精神がある。一人ひとりの力が全体をつくる。みんなは一人ひとりのためコラボレート（協力）する。そして正確さとスピードを競うということだ。

いま企業にこの精神が求められているのではないだろうか。





空海 (弘法大師) 平安初期の僧

- 宝亀5年6月15日 現香川県善通寺市に父は郡司・佐伯直田公、母は阿刀大足の娘（又は妹）の子として生まれ、幼名は真魚。
- 延暦8年（789年） 平城京で桓武天皇の皇子の家庭教師であった阿刀大足から論語、孝経、史伝などを学ぶ。
- 延暦11年（792年） 18歳で京の大学寮に入り明経道、春秋左氏伝、毛詩、尚書などを学ぶ。
- 延暦23年（804年） 31才、東大寺戒壇院で得度受戒。同年第16次遣唐使留学僧として長安に入った。（20年の予定）
遣唐使一行には、最澄・橘逸勢、靈仙らがいた。入唐船団は4隻、途中嵐に会い2隻のみが唐に到着。
- 延暦24年（805年） 32才、密教の第7祖・恵果和尚に師事。伝法阿闍梨位の灌頂を受け、遍照金剛の灌頂名を与えられた。
- 大同元年（806年） 20年の予定を2年間で帰国。
- 弘仁7年（816年） 朝廷より高野山を賜る。
- 弘仁14年（823年） 太政官符により東寺を賜り、真言密教の道場とした。
- 天長9年（832年） 高野山において最初の万燈万華会が修された。
- 承和2年（835年） 3月21日入定した。享年61才。
- 延喜21年（921年） 東寺長者観賢の奏上により、醍醐天皇から「弘法大師」の諡号が贈られた。
弘法大師は真言宗の開祖として、また、能書家として嵯峨天皇・橘逸勢と共に三筆の一人に数えられている。

オススメのBOOK



『ハゲタカ外伝 スパイラル』

作者 真山 仁 ダイヤモンド社

本書は東大阪を舞台に、中小メーカーマジテックの創業者で天才発明家の社長が突然亡くなり、会社経営が困難視される中、事業再生のため主人公が奮闘する物語。しかし、自己利益を優先する金融機関や企業の買収を専門とする会社がいわば弱体化した会社をハイエナのごとく乗っ取りにかかり襲ってくる。そして様々な難題が次から次へと降りかかってくる。

人工頭脳ロボットやドローンなどこれからさらに進歩しそうなモノづくりの最先端の技術を持つ零細企業の生き残りをかけた戦いが繰り広げられる経済小説である。

交通事故が起こったら 加害者の3つの **責任**

自動車の運転者が交通事故を起こすと、運転者（加害者）は、道義的責任（お見舞い等）だけでなく法律上の3つの責任を負わなければなりません。

- 1) 刑事上の責任
- 2) 行政上の責任
- 3) 民事上の責任



1) 刑事上の責任とは ＜刑事処罰＞

自動車事故によって、人を死傷させると自動車運転過失致死傷罪という罪で、懲役・禁錮7年以下あるいは100万円以下の罰金に科せられます。交通事故の刑罰は年々厳しくなっており、平成13年12月の「危険運転致死傷罪」の施行により、もはや「過失」とはいえないような運転によって人を死傷させた場合においては、死亡の場合で1年以上20年以下の懲役、負傷の場合で15年以下の懲役に科せられたりします。

懲役

刑務所に入り、強制的に一定の刑務作業を命ぜられて、服役期間中は刑務作業を行わなければなりません。

禁錮

懲役より軽い刑罰で、刑務所に入ることになりますが、懲役のように刑務作業を強制的に命じられることはありません。

罰金

禁錮より軽い刑罰で、自動車事故を起こした場合には、1万円以上100万円以下の範囲内で徴収されます。罰金を完納できない場合は、1日以上2年以下の期間を労役場に留置されることになっています。

2) 行政上の責任とは

＜行政処分＞

公安委員会が一定の基準で運転免許の停止、取り消し及び反則金等の行政処分を行うものです。

＜点数制度＞

運転者の過去3年間の交通違反や交通事故に対し所定の点数を付け、その合計点数が一定の基準に達した場合に運転免許の停止や取り消しなどの処分をする制度です。但し、過去3年以内でも、その間に1年以上の無違反期間または無違反で過ごした停止期間があるときは、それ以前の違反点数は累積計算されません。

3) 民事上の責任とは

加害者は、被害者の損害を賠償する責任を負います。この責任の根拠は、民法、自動車損害賠償保障法に基づきます。

保険は、この加害者の民事上の責任を肩代わりするものです。

決して他人事ではない交通事故。私達は道路交通法を守り、思いやり、譲り合いを持って安全運転を心がけ事故の防止に努めましょう。



五月雨をあつめて早し最上川

【編集後記】

熊本地震発生以来1ヶ月以上経過して、余震が1000回以上続くという異常事態が続いている。被災された人達に心からお見舞いを申し上げ、一日も早い正常化と普及活動がスムーズに進むよう祈りたい。

異常と言えば、東京都知事の金銭感覚、オリンピック委員会のコンサルタント料の支出には不透明感が漂う。

一般国民の目には異常としか映らない。あたりまえのことをあたりまえに、あまり難しく考えずに、一般常識で納得のゆくような「説明責任」を果たしていただきたい。